

第91回 GAORA 番組審議会記録(2025年12月開催)

第91回番組審議会が12月9日(火)に開催され、対象番組について審議を行い、委員の皆様から以下のご意見をいただきました。

＜対象番組＞ ガオバレ！SVリーグの主役たち～2025-26～
初回放送 2025年10月18日(日)18:20～19:20

＜番組概要＞

2年目のシーズンを迎える SVリーグ。本番組では、大阪を拠点とする4つのチームにスポットを当て、それぞれの挑戦と成長を深く掘り下げて紹介します。

連覇を目指すサントリーサンバーズは、日本代表の司令塔・関田誠大選手を新戦力として迎え、盤石の体制でシーズンに臨みます。昨シーズン優勝を逃した大阪ブルテオンは、悔しさを糧に再起を誓うシーズン。エース・西田有志選手ら主力が開幕前に行った“緊急ミーティング”に密着し、その裏側に迫ります。日本製鉄堺ブレイザーズでは、守備の要として注目を集める若手リベロにフォーカス。成長と苦悩の日々をカメラが追いました。そして、女子の部で圧倒的な強さを見せたシーズン優勝を果たした大阪マーヴェラス。チームを支えるコーチと選手たちの“強さの秘密”に迫ります。

＜委員長総括＞

■複数のディレクターが各パートを担当してそれぞれが作り込むというオムニバス形式は、新たなチャレンジとして評価するものの、番組として通してみたときにその良さを如何に引き出すのか、ここを課題点として指摘する意見が各委員の評価に表れていた。

パート毎に企画や構成が違うところ、画面上の表示には番組としての統一感を持たせるところ、尺長とストーリーの掘り下げ方、見どころの採り上げ方とその演出、等々が改善点であった。

今後もCSスポーツ専門チャンネルとして、その特性とターゲットを見据えて『魅せる番組作り』を期待する。

＜審議意見＞委員の主な意見は次の通り

■全体を通してテンポが良く、選手の人間味やチームのドラマ性が伝わる構成で、新シーズンが開幕するSVリーグについて興味が湧く内容であった。一方で、視聴者の理解を補助する字幕やデータの表示方法にバラツキがあり、情報の整理、統一に改善の余地を感じた。大阪マーヴェラスのパートでは選手にカメラを預ける演出で、普段は見ることができない臨場感のある映像に引き込まれたが、林選手の代表辞退の決断のところは掘り下げが足りず惜しかった。

■全体的にテンポがよくすんなりと興味を持って最後まで視聴できたものの、各パートとも時間的な制約による尺長から掘り下げ不足を感じ、もう少し踏み込んだ話を聞きたかった。ブルテオンのところは、3人の選手だけではなく司会者を置けばもう少し話が深まつのではないか。またマーヴェラスの林選手のところは、代表を辞退した思いをもっと詳しく知りたかった。そして、各選手の

紹介には特徴的なプレーをみせるカットや、バレー ボールの魅力を伝える迫力ある映像があれば、より強く印象付けができたのではないか。

■新シーズンの開幕にあたり、各チームがどう変わったのかが理解できた。サンバーズには関田選手が移籍し、ブルテオ nにはフランス代表のセッターが加入するなど新戦力の情報がよく分かった。各パートをどこまで掘り下げられるのかがポイントになっていた。ブレイザーズ森選手の話は興味深く視聴できたが、サンバーズ関田選手とアライン選手のところは、それぞれの尺が短くあっけなく終わってしまい物足りなかった。とり上げる話題は各チーム1点に絞り込んで制作すれば、より見応えのある番組になったのではないか。

■バレー ボールの番組は初めての視聴であったが、今シーズンは登場した選手に注目してSVリーグをフォローしていきたいと思えた。ブルテオ n関田選手は移籍して新シーズンに臨む気合が伝わり、ブレイザーズ森選手の話は大変興味深く引き込まれた。マーヴェラスは、多数の選手映像とコメントを取り上げたことでチームの雰囲気がよく伝わってきた。一方、ブルテオ nの三本柱による緊急会議は、内容面に盛り上がりがなく全般的にぬるい感じで終わってしまった。

■登場した各選手のストーリーはよく伝わったが、番組全体としては地味な印象を受けた。テレビ番組としては、もっとスペクタクルを感じさせる演出が欲しかった。アライン選手の話は、ノンフィクションとして番組化できるだけの内容があり、森選手の苦悩と成長の過程は、学生スポーツに携わるものとして身につまされる話であった。ブルテオ nの鼎談からは、トークテーマである『集団の結束力』は伝わってこなかった。派生した話となるが、アスリートのセカンドストーリーは十分番組化できるところであり、また日本でのバレー ボールの普及に関して、“ヘルテージスポーツ”としてとり上げるのもおもしろい切り口だと感じた。

■今まさに高まっているバレー ボール人気を根付かせようと、4名のディレクターが構成や演出にアイデアを凝らして丁寧に制作していることが伝わり、好感が持てた。しかしながら、各パートを合わせたトータルでは、躍動感が足りずグッと迫ってくるような押し出しの強さが無かつたことで、残念ながら平板な印象の番組になっていた。ブルテオ nのパートは、“本音トークの緊急会議”と銘打った割に内容が薄かった。ブレイザーズのパートでは、森選手と安藤コーチのところだけで十分番組化できるストーリーがあつただけにもつたかった。マーヴェラスのパートでは、前半に柔らかな合宿風景やメンバーの紹介から入り、後半にシリアスな林選手インタビューという展開であったが、好みかもしれないがその逆の構成はなかつたのかと感じた。

[審議委員]

種子田穰委員長、影山貴彦副委員長、黒田勇委員、藤井純一委員、沢松奈生子委員、森本志磨子委員、石塚徹委員（以上7名）

以上、GAORA では、委員の皆様の貴重なご意見を、より良い番組をお届けしていくために活用させていただきます。